

奥山ボーリング(株) 星宮 大樹

このたび、若手技術者セミナーに参加させて頂き、私にとって大変貴重な体験をさせて頂きました。

特に二日目の討論会では、現場代理人、オペレーター部門の副座長を努めさせて頂いたわけですが、討論会開始当初は、質問、意見がなかなか出ず、討論会進行役としては困惑した場面も多々ありました。しかし、委員会の方々の手助けもあり、会中盤からは、活気のあるとても中身の濃い討論会になったと思います。

様々な技術的意見が交わされた中で、私自身、非常に興味を持ったのが、対人関係に関しての意見交換でした。例をあげますと、現場代理人の方が「オペレーターの方にはなかなか話かけづらい。」や「ボーリング作業中は、代理人にどのような事をしてもらいたいか。」などと言う質問に対し、オペレーターの方は、「どちらも話かけづらい。でも、どちらか話かけることによって、会話が生まれ、作業もスムーズに進

行するのではないか。」や「作業中は危険なので作業範囲内には立入らないでほしい。」また「作業がスムーズに進行するよう、発注者との打ち合わせや、現場での指示は的確に行ってほしい。」などと言う意見が出ました。

なぜ私が、このような意見交換に興味を持ったかと言うと、私も以前、同じ様な悩みを持った事があるからです。「技術面も大切ではありますが、対人関係や、現場作業がスムーズに行くことによって、技術が付いてくるものではないか」と私は思っております。

この若手技術者セミナーに参加して、自分の抱える悩み、問題点が一つでも解消されたと言う方は数多くおられると思います。私もその中の一人です。

最後になりましたが、今回は、オペレーター部門の参加者が非常に少ないと感じました。次の開催時には是非、多数のオペレーターの方が参加して頂きたいものです。私も機会があれば、もう一度参加したいと思います。

日栄地質測量設計(株) 仁井田 成典



私は、今年1月初めて「若手セミナー」に参加しました。今回は1月11～12日に開催され、上司の薦めで参加しました。

前々から若手セミナーについての噂は聞いていましたが、今年で3年目を迎える私ですが「まだ若手」と思っていたのは事実です。しかし、「若手セミナーは若手だけが参加するのでは成り

立たず、発見のないセミナーであることだけは実感しました。

1日目の内容は、講習会と懇談会でした。私には、まだ少し難しいと感じる内容ではありましたが、興味津々となって聞き入っていました。内容は、「環境に関する地質調査」についてでしたが、私にはまだ全く考えたことも耳にした

こともない内容で衝撃を受けました。それは、私の考える地質調査をいうものは建設に関するものだけだと信じ込んでいたからです。「建設＝環境破壊」という古典的な概念が私の中には少なからず存在しています。しかし、今後の地質調査には建設だけでなく、良質な土壌良質な地盤を知ることにより、それを守っていく、つまり、環境を守っていく地質調査が必要になっていることを改めて感じました。また、これからの地質調査には「科学」が大きく関わってくることを知り、今後の地質調査に興味を持ちました。

次に懇談会。このセミナーにおいてもっとも興味を持っていたのは事実です。

実際、話をした内容といえば、仕事の話だけでなく、職場の環境の話であったり、遊びの話であったり、地元のラーメン屋の話であったりと多種多様ではありましたが、こういう大した話でないと言ったら失礼かもしれませんが、極普通の話了他社の課長さんと話したり、技術士さんと話ができただけは、今後いろいろな人達と仕事で関わっていく上で、いいプラスになったと思います。本来、見知らぬ人と話す、年齢の違う人達と話す、といった簡単なことが実際

難しいことであると思います。そんな点で大きな収穫になりました。

次にディスカッション。

これは意外と同年代の若手の人達が実は同じような問題で悩み、つまづいているんだなあと思えて感じました。私は、「報告書」に参加しましたが、他社と自分のまとめ方の違い、工夫している点など、こういう場でないとなかなか知ることができない部分などとても参考になりました。

最後にこのセミナーに参加して次のことを感じました。①実は皆、同じようなところで悩み、つまづいている。②このセミナーに一度は参加すべきである。これは、参加したほとんどの方が感じたことではないかと思えます。また、私はこのセミナーにあと二回は参加したいと思いました。それは、もうしばらくしてある程度地質調査を理解した時。もう一つは管理職位になった時。それは若手の素直な意見を聞くことができ、きっと何かを得ることができると思ったからです。

最後に、まだ一度も参加したことのない方は、ぜひ、一度は参加することをお勧めします。きっと何か得るものがあると思います。

昭さく地質(株)

五十嵐 淳司

私は、日ごろ地質調査業を主とした業務に携わっているのであるが、これらの業務関連(同業者)の人々と意見を言い合い、交流を行う機会が少ないことから、平成13年1月11～12日に開催された「平成12年度第2回若手技術者セミナー」に参加した。この様なセミナーに参加したのは、私が初めてであり、どんな意見が提供されるのか…どんな人々が参加するのだろうか、今考えると緊張と不安があったような気がする。

1日目、参加者が集ったセミナー会場は、大変な静けさでこの静けさの中で2日目のディスカッションは進行していくのだろうか? と思ったが、その日の夜に行われた慰労会の力は絶大である。昼間の静けさが嘘のようににぎやかにな

り、徐々に声の輪が広がっていく。会話の内容は、同業者が集ったこともあり、仕事上の悩みから、これからの、そして今携わっている業務等の話をしているようだった。私は、どちらかと言うと酒が好きな方であるから夜遅くまで大変楽しませてもらったと思う。

2日目に実施されたディスカッションで私は、報告書から現場サイド・土質試験等を議題としたディスカッションに参加した。このパートに参加した人数は、3つのディスカッションパートの中で最も多く参加者が16人であり、その他に講師が4人・議長・副議長を含め計22人で実施されたと確かではないが記憶している。

話題提供は、「調査ボーリングには欠かせないN値」・「地下水」・「現場を進行していく

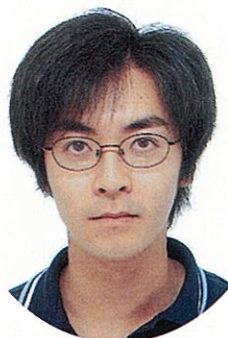
上での問題点」・「報告書」などの話題提供がなされた。その中で私が最も興味かつ身近に感じた話題は、現場を進行させていくうえで欠かせないオペレーター（ボーリング機長）との接しかたである。参加者は、講習の名のとおりに私と同年代が比較的多く、現場に出てしまうとボーリング機長等の人の方が目上であることが多い。当然、現場での経験年数が豊富で知識・技術においても上である場合が多い。そのため、物を頼みづらい。頼んでもやってくれないなどと言った意見が持ち上がった。実際に私も現場に出るとほとんどのケースでオペレーターが目上であり、物事を頼みづらいし、気を使いながら話をしている。だから、この話題には大変興味を湧いた話を聞いてみると話題に参加している人は何の目的でどのような事を知りたいかを十分機長に説明していないようであった。

また、その大半の人は現場に常駐していな

いようである(会社の経営スタイル・人件費削減・複数の業務を抱えているなどといった理由で)。土質状況を例に挙げてみると、現場に常駐しない＝オペレーターの日報がすべてであり、社内にコア観察を行っても試料が乱れているため、土層の薄層等が結局わからず、日報が土質柱状図に反映されていく場合が多いものと考えられる(今は、標準貫入試験試料を採取したまま保存する袋があるらしいが)。

したがって、現場代理人等のみが調査の内容・目的を把握していれば良いのではなくて、実際現場内で作業を実施しているオペレーターにもそれらの内容・目的を十分伝えることが重要であると考え。できれば、発注元との打ち合わせにも同行してもらい、業務の内容を十分理解してもらうことが、オペレーターとの信頼関係にも一理つながるのではないかと考える。そして信頼関係を築けたらいいと思う。

(株)共同地質コンパニオン 佐藤 真哉



5月10日、11日と青森県の浅虫温泉で若手技術者セミナーが開催されました。私は、今回初めてこのようなセミナーに参加させて頂きましたが、とても楽しく参加させて頂きました。

1日目、最初に三内丸山遺跡の見学に行きました。その後自己紹介を終え、懇親会が始まりました。懇親会がこのセミナーのメインイベントだと研修委員の方がおっしゃっていましたが、私もその通りだったと思います。始めは、初対面という事もあり、多少緊張しながら、周りの方達と仕事上の話ばかりしていました。しかし、お酒がすすむにつれて、様々な話題に花が咲き、とても盛り上がりました。私は、この懇親会で様々な方達と打ち解けあう事ができました。また、とても楽しい時間をすごす事ができました。

2日目、午前9時から12時まで、ディスカッショ

ンが行われました。ディスカッションは、オペレーターと現場管理のグループと報告書のグループとに分かれて行われました。

ディスカッションの流れは、事前に集計されていた、参加者の質問を各パネラーや参加者が意見や見解を交わし合うという形で行われました。私は、オペレーターと現場管理グループで参加しました。私の質問は「100%コアを採取する方法」というとてもアバウトな質問だったのですが、各パネラーの方達の経験にまつわる様々なわかりやすい意見を数多く頂く事ができ、とても勉強になりました。また、その他のオペレーターや現場管理の方達の質問も、これから仕事をしていく上でとても参考になりました。

私は今回の若手技術者セミナーで、たくさんの質問や意見を聞く事ができ、色々と参考

になり、とても勉強になりました。また、他の会社の方達とも余り交流がない私としては、今回のセミナーはとても貴重ですばらしい体験となりました。もし機会があれば、また参加させて頂き

たいと思っています。その時には、ディスカッションでもっと意見を出せるよう、もっと努力したいと思います。本当に楽しい2日間でした。

日栄地質測量設計(株)地質調査一課
中野 秀訓



この度、平成13年5月10日～11日の2日間、青森県、浅虫温泉で開催された東北地質調査業協会主催の「平成13年度第1回若手技術者セミナー」に参加させて頂きました。

1日目は、日本最大の縄文集落跡として知られている「三内丸山遺跡」を見学しました。堅穴住居跡。大型堅穴住居跡、堀立柱建物跡、大量の遺物が捨てられた谷（泥炭層）、大規模な盛土、大人の墓、子供の墓、土器作りのための粘土採掘穴などがありました。用途についてもよく分かっていない物もあり、縄文時代の人々の生活を想像しながら見学することができて感激しました。

見学会終了後には、参加者全員の自己紹介が行われ、次いで懇談会が開催されました。私はこの様なセミナーへの参加は今回が初めてでしたのでとても緊張していましたが、懇談会では仕事や会社の話はもちろんですが、それ以外にも他社の先輩方の日常生活のこと等、いろいろな話をすることが出来て、しだいに緊張もやわらいでいきました。大変有意義な時間を過ごすことができたと思っております。

2日目は、「オペレーター+現場管理」、「報告書」の2グループに別れてディスカッションが行われました。私は「オペレーター+現場管理」のグループに参加させて頂きました。ここでは、

参加者が日頃疑問に思っていることを議題として意見を交わしました。私は入社して4年目ですが、3年間は情報システム課のほうで主にCADをやっており、地質調査の仕事に携わってまだ1ヶ月程度しか経っていないため、とても不安でした。しかし、経験不足でまだまだ未熟な私に対し、パネラーの方々の実際の経験を含めた親切丁寧な御意見・御返答に非常に勇気付けられ、大変勉強になりました。参加者の方々の御意見も興味深いものばかりで、福島県いわき市在住の私にはとうてい考えもつかない「雪対策について」等、ビックリするような内容のものもありました。

今回このようなセミナーに参加することができ、日頃経験することのない、貴重な時間を過ごすことができました。まずはこのセミナーで学んだことを生かして自分自身レベルアップし、今後またセミナーに参加できる機会がありましたら、是非参加させて頂きたいと思っております。そして、1日も早く他社の技術者の皆様と対等に意見交換ができるような技術者になれるよう頑張りたいと思います。

最後に東北地質調査業協会の皆様、並びに他社の技術者の皆様に感謝し、御礼を申し上げます。

(株)東北開発コンサルタント調査部

市川 健



5月10・11日の2日間、青森県青森市において東北地質調査業協会主催で行われた「平成13年度第1回若手技術者セミナー」に参加させて頂きました。セミナーは見学会と討論会に大別され行われました。見学会は第1日目に三内丸山遺跡にて現地のガイドつきで行われ、遺跡の全体の散策や資料館の見学を行いました。討論会は第2日目に参加者を報告書作成グループと現場管理・オペレーターグループの2グループに区分し、それぞれである議題(事前に各人が用意)に対して討論しました。以下に討論会の概要および私見を述べさせて頂きます。

私は、日常の業務より報告書作成グループに参加させて頂きました。本グループは、若手技術者16名が参加し、座長、パネラー(講師陣)等を含め総勢20名程度で構成されました。本グループの討論議題は幾つか挙げられましたが、皆が共通に感じているものとして「報告書の作成方法(特に、見やすくわかりやすい報告書とは)」を主題に取り上げ、討論・議論を行いました。

その結果、「見やすくわかりやすい報告書」を作成するには、1.読み手の立場に立つこと(誰が読むのかを想定し、そのレベルに応じる必要がある)、2.調査の目的に対しての的確な答

えを明示すること、3.図表・写真等を的確に利用し視覚的効果を取り入れること、等が挙げられました。その他にも、前書きを充実させる(概略結果を記載)、概要版を作成する等の意見も出され、非常に充実した討論を行うことができました。

それから、あるパネラーの意見であったが「我々は、時に一般人に優しく土質・岩盤工学を説き、時に研究者の一面を持ち業務に携わる必要がある。」この意見には私も共感し、つまりこれが「見やすくわかりやすい報告書」を作成するときの原点であるとも考えました。この意見は上述した1.読み手の…、に繋がることと考えます。

私が討論会に参加し、感じたことですが(得たもの)、報告書は見やすくあってもいいが、簡素ではいけない。わかりやすくあってもいいが、簡単(幼稚)ではいけない。これは、個人的な意見であり技術者(各会社)それぞれで考え方は違うことでしょう。

最後になりますが、入社6年目に再度報告書に対して刺激のある討論ができたことを協会をはじめ、本セミナー関係者および出席者に感謝致します。来年度も是非とも参加し、いろいろな意見を交わしたいと思います。